Interview

# 被災者100人が歌い、踊る、震災と津波のミュージカル 3/18に上演

## 脚本・演出・音楽を手がける 寺本建雄（たてお）さん

東松島高校体育館での稽古風景

寺本さんのアトリエで

作曲家、演奏家、イベント構成演出家、イラストレータとさまざまな顔を持つ寺本建雄さん（65歳）。これまで作曲したミュージカルナンバーは800曲以上。過去に音楽家としては初めて第19回菊田一夫演劇賞を受賞している。手がけた社歌や町民歌も多数。器楽演奏もギター、フルート、トランペット、尺八、三味線に至るまで。その上、スプーンやドリンク剤などおよそ音がでるものは何でも楽器にしてしまう。描くイラストもどこかユーモラスで楽しく、寺本さん独自の世界。この多才さを、人呼んで〝天才てらもと〟。長身、長髪にサングラスがトレードマーク、風貌も無国籍風ならファッションも超個性的。どこにいても一目で寺本氏だとわかるのだ。

ミュージカル劇団の音楽監督時代から全国にファンを持っているが、フリーになって初めて、今年7月と9月に地元ルネこだいらで「個展PANコンサート」と題するステージを開いた。その面白パフォーマンスに〝天才てらもと〟を実感、納得。その時ゲスト出演して歌を披露したのが、宮城県東松島市で津波被害にあった前谷ひろしさんだった。

### 被災者によるミュージカルを♪

寺本さんにとって前谷さんは古い友人。あの大震災直後、東松島に住む前谷さんと何日も連絡がとれず、寺本さん一家は大変心配した。幸い前谷さん夫妻は無事だったが、自宅が津波に直撃され住む場所を失い、1ヶ月ほど寺本さんの自宅に身を寄せた。

毎晩のように前谷夫妻から「この世の終わり」のような被災体験を聞いた。そして日本中、世界中からの温かい支援の輪のこと。芸能人も大勢押し寄せ、歌い元気づけてくれたこと。しかし「被災者自らが歌えばもっと元気になるはず。被災者によるミュージカルをやろう！」と寺本さんは風呂上がりに宣言した。前谷さんも今年2月、地元で合唱団を立ち上げた矢先だった。「被災地に来て貰うだけではなく、支援の手を差しのべてくれた人たちに、被災地から感謝の気持ちを伝えに行こう」。こうしてミュージカル「とびだす100通りのありがとう！」プロジェクトが7月に発足。来年3月に東京と仙台で公演することが決まった。

楽しいイラスト作品

### 毎週末東松島に出向いて指導♪

出演者募集の呼びかけは仙台放送や石巻日日新聞などの地元メディア、市報が協力してくれた。11月1日の時点で参加希望者が目標の100人を突破。2歳の幼児から宝塚に憧れていた82歳の方まで。小中学生・高校生、公務員、消防団員、主婦、さまざま人々が石巻、東松島、仙台などから集まった。その中には高校生の娘を亡くした方、津波の中を助けられた子どももいる。最初から裏方のスタッフとして関わりたいと申し出る人たちもいる。

「すべて素人の方たちで、オーディションはしません。上手、下手に関係なく、できないことをやっていく過程がいいのです。一人一人にそれぞれのド

ラマがあり、100人皆が主人公です」と寺本さん。振付は元宝塚歌劇団の室町あかねさんがかってでてくれた。

ミュージカル創作のため、この夏から度々、前谷さんの被災した自宅2階や仮設住宅に泊まり込んで、現地の人々から震災体験を取材。仮設住宅でミニコンサートも開いた。宮城に関する本を何十冊も読み、宮城のすごさを伝えたいと思う。最近「宮城名物あいうえお音頭」という歌ができあがった。十数曲を書き下ろす予定だ。

## 倒木の松でギターをつくる♪

東松島ではたくさんの松の木が津波でなぎ倒され、瓦礫の中にごろごろしていた。それを前谷さんが貰ってきた。「その松でギターをつくろう」と思いついた寺本さん。30年来のつきあいがある、ハンドクラフトギターの名門メーカー、「ヤイリギター」（岐阜県可児市）に製作を依頼した。普通ギターは大きな木を製材して、最低10年は乾燥させないとできないという。寺本さんはヤイリギターのマスタークラフトマンと呼ばれる小池さんに直接相談に行った。ミュージカルの話に感銘を受けた小池さんは、無理は百も承知で、製作にチャレンジしてくれることになった。今、被災の松は岐阜の地で乾燥中、ギターに生まれ変わる日を待っている。このギター3台がミュージカル当日披露される予定。寺本さんの想いが人の心を動かし、不可能なことでも可能にしていく。

11月5日から始まった稽古は毎週末、本番まで36回のスケジュールが組まれている。会場は東松島高校の西体育館。寺本さんは総合プロデューサーを務める妻の祖父江真奈さんとともに、新幹線で週末指導に通っている。それにしても100人が東京に移動し、宿泊するだけでも多大な費用がかかる。バックにスポンサーがいる訳でもない。祖父江さんは協賛金を提供してくれる企業の協力を求めて、東奔西走の毎日だ。けれども夫妻に気負いが感じられないのは、これまで5千に上るステージをこなしてきた実績があり、何よりも皆でつくりあげる喜びがあるからだろう。

来年3月18日、折しも大震災1周忌の1週間後、銀座ブロッサムで「ありがとう」を伝えるステージの幕が開く。苦難を乗り越え、前向きに一つの目標に向かった出演者たちはどう変わるのだろう。きっと新たな絆と希望とが生まれるにちがいない。（小平市在住）

◆オフィシャルサイト

http://minna-arigato.com